

宇都宮市立宝木中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思います。」と回答した生徒の割合は(89.5%)で9割を程度になっている。これは国の80.7%に比べ約10%高い結果となっている。日常の生徒指導において、いじめ撲滅の指導は、学校をあげて指導を行っているところであり、生徒指導主事を中心に、各学級、生徒会等で生徒の意識向上・実践力向上に向けての取り組みが功を奏していると考えられる。この結果に満足せず、100%を目指したい。

○数学に関する調査結果は全体的に望ましい結果となっている。「数学の勉強は好きですか」(25.8%で県・国と同程度)「数学の勉強は大切だと思いますか」(52.4%で県より3.7ポイント、国より6.5ポイント高い。」「数学ができるようになりたいと思いますか」(81.5%で県より4.8ポイント、国より8.1ポイント高い。」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立ちますか」(50.8%で県より11.9ポイント、国よりも15.9ポイント高い。)このように、数学の授業に対して、前向きな考え方で取り組んでおり、このまま努力させていきたい。

ただし、課題もあり、もっと簡単に解く方法を考えたり、公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしているかという部分は、今後もその意識を持たせて授業を展開したり、他の教科や日常の取り組みにも反映させる必要がある。

●「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に当てはまると回答した生徒が25.0%となっており、これは県や国の結果より十数%低い結果となっている。自尊感情の高揚は、学校の重点目標でもあるので、褒められる、認められるなどにより人間関係を育む集団づくりを推進する。

●「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に当てはまると回答した生徒が37.1%となっており、県の50.5%に比べ、低い結果となっており、今後の課題である。夢や目標は、生き方そのものに関わることであるため、学校教育全般に渡り、再度見直しを含め、キャリア教育の充実を図っていく。

●「教科書を使いながら学習していますか」の質問に当てはまると回答した生徒が24.2%となっており、県や国よりも十数%低い結果となっており、学習指導をする上で、各教科に渡り、授業での教科書の扱い方や家庭学習のさせ方にも折に触れて指導する。

●理科に関する調査結果は全体的に課題を残す結果となっている。「理科の勉強は好きですか」「理科の勉強は大切だと思いますか」という質問に県や国の結果より十数%低い結果となってる。理科に関する調査結果を真摯に受け止め、日々の授業で理科学習の魅力を伝えていきたい。

宇都宮市立宝木中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎思考力や判断力、表現力等を育成する言語活動の実践	(1)『分かる授業』の推進 ①「本時の目標(めあて、ねらい)」をつかむことのできる明確な提示	○数学の授業の内容はよく分かりますか72.5%(全国71.0%よりも1.5ポイント高く、県72.7%とほぼ同程度) ●理科の授業の内容はよく分かりますか56.4%(全国70.0%よりも13.6ポイント低く、県76.5%より20.1ポイント低い)
	②効果的なノートの活用	●数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか80.7%(全国80.6%とほぼ同程度、県83.6%よりも2.9ポイント低い)
	③生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫	●数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか66.1%(全国69.2%よりも3.1ポイント低く、県70.4%よりも4.3ポイント低い) ●数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか68.5%(全国70.4%より1.9ポイント低く、県74.9%より6.4ポイント低い)
		●理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか51.6%(全国72.3%より20.7ポイント、県78.5%より26.9ポイント低い)

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
		○1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか78.2%(全国73.8%より4.4ポイント高く、県78.1%とほぼ同程度)
	④話し合い活動の積極的な導入	●理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか23.3%(全国41.4%よりも18.1ポイント、県43.6%よりも20.3ポイント低い) ●1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか50.0%(全国53.8%より3.8ポイント低く、県58.9%より8.9ポイント低い) ●生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか75.0%(全国76.3%より1.3ポイント低く、県80.0%よりも5.0ポイント低い)
	⑤「ふりかえり」活動の徹底	●理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか45.2%(全国59.0%よりも13.8ポイント、県66.0%よりも20.8ポイント低い)
◎家庭学習ノートを活用など、家庭学習の一層の充実	(2) 家庭学習の習慣化 ①意欲や目的をもって取り組める宿題吟味、工夫	○家で、学校の宿題をしていますか92.7%(全国91.6%よりも1.1ポイント高く、県92.8%とほぼ同程度)
	②自主学習ノートの活用	・家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか58.0%(全国52.1%よりも5.9ポイント高く、県59.4%よりも1.4ポイント低い) ・家で、学校の授業の予習・復習をしていますか63.7%(全国55.2%よりも8.5ポイント高く、県67.2%よりも3.5ポイント低い) ●家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか69.4%(全国71.3%よりも1.9ポイント低く、県76.0%よりも6.6ポイント低い)

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
(1)『わかる授業』のより一層の推進に向けて		
①「本時の目標(めあて、ねらい)」の提示を95%以上にし、習慣化を図る。	①「本時の目標(めあて、ねらい)」の確実な提示	①毎時間の学習課題に即した「本時の目標(めあて、ねらい)」の提示を、毎時間、確実に行う。
②授業で使うノートの効果的な活用を図り、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめが書かれている生徒の割合を85%以上にする。	②効果的なノートの活用	②-1 教科担任によるノートの確認などを通して、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書かせる指導を充実させる。 ②-2 教科担任による板書の工夫と、学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導を充実させる。

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
③授業における、生徒同志の話し合い活動の更なる充実を図る。	③話し合い活動の積極的な導入	③各教科担任による話し合い活動の充実だけでなく、学級担任による学級活動の活性化も図る。
④生徒間の話し合い活動をより一層充実させ、考えを深めさせたり、広げたりすることができている生徒の割合を85%以上にする。	④生徒の考えを引き出し、思考を深められる(主体的に考えられる)発問の工夫	④教科担任による教材研究の充実と、「一人一授業」の公開による教師間の学びあいを通じた、授業力の向上を図る。
⑤学習内容の振返りを習慣化させる。	⑤「ふりかえり」活動の徹底	⑤ワークシートやまとめのテスト、自己評価などを活用して、学習のねらいに即した振返りを確実に実施する。
(2)家庭学習のより一層の充実に向けて		
①家の人と学習について話をしている生徒の割合を85%以上にする。	①学習に対する家庭の関心を高める工夫	①三者懇談、教育相談、学校だより、学級だよりなどを活用した学習に関する情報提供を充実する。
②予習、復習などの計画的な家庭学習を、より一層充実させる。	②自主学習ノートの点検、アドバイス、賞賛	②-1 学級担任による、家庭学習の内容の点検と、コメントの記入等による助言を行い、誉める指導を充実する。
		②-2 優れたノートの学年の廊下への掲示と、小学校への紹介を行い、実践例の紹介を通して、自主学習ノートの活用と工夫を促す。
③「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」生徒の割合を更に増加させ、学習内容の効果的な定着を図った復習を実施させる。	③家庭学習の仕方を明示、説明	③-1 教科担任からの復習方法の助言と個に応じた指導を充実する。
		③-2 本校独自の「家庭学習の手引き」を活用し、保護者にも家庭学習の方法を紹介し、家庭学習の充実を促す。